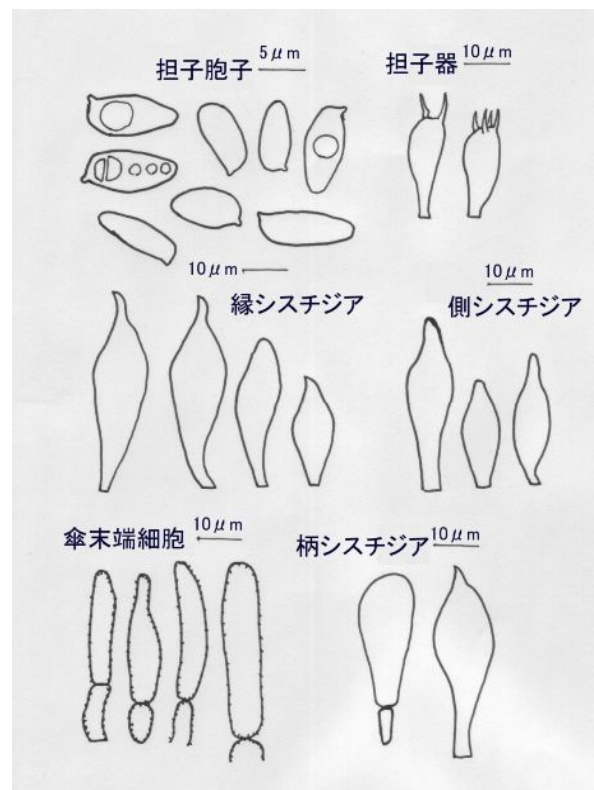


神戸産ニガイグチ属菌2種

アシボソニガイグチ

Tylopilus argillaceus Hongo



採集日:2006年7月3日

採集場所:神戸市須磨区奥須磨公園

採集環境:コナラ・カシ林樹下

肉眼的特徴

傘は径 1.5-4.2cm, 半球形のち饅頭形ついに平開する;表面は湿時弱い粘性があり, ビロード状, 淡黄褐色~黄褐色, 触ると暗褐色に変色する. 柄は 3.0-5.0×0.5-1.1cm, 上下同大か上部に向かって細く, 中心性, 中実;表面は網目はないが縦皺があり, 下部で焦茶色~帯オリーブ焦茶色, 上部ほど色は淡くなり, 頂部では白色, 基部には白い菌糸束がある. 肉は厚さ 0.5-1.0cm, 傘・柄ともに白色, 傘では切断するとわずかに淡紅色に変色し, ときに柄の内部では一部にオリーブ色のしみがある;質は弾力があり丈夫, 強い苦味があり, 異臭がする. 管孔は直生し, 厚さ 1.5-3.0mm;孔口は 2 個/mm;管孔・孔口ともに白色から淡紅色となる. 胞子紋は淡紅色.

顕微鏡的特徴

胞子は類紡錘形~楕円形, 大きさ8.0-11×3.5-4.5 μ m, Q比2.0-2.9, 平滑, 油球があり, 偽アミロイド. 担子器は棍棒形, 2-4 胞子性, 大きさ 18-22×7.5-9.0 μ m. 縁シスチジアは紡錘形, 大きさ 23-43×9.0-12.5 μ m. 側シスチジアは紡錘形, 大きさ23-38×8.0-10 μ m. 子実層托実質は散開形. 子実層托を構成する菌糸は非アミロイド. 傘上表皮は柵状被, 菌糸の太さは 3.0-7.5 μ m, 表面には黄褐色~褐色の色素が凝着し, ときに大きい黄褐色の色素の固まりがある;菌糸の末端細胞は円柱形でときに先端は三角状に細くなる. 傘実質は錯綜する. 傘実質を構成する菌糸は非アミロイド. 柄上表皮は平行菌糸被, 平行に走る菌糸は太さ 0.5-4 μ m, 菌糸の先端はシスチジアとなって立ち上がる;柄シスチジアは円柱形~棍棒形~紡錘形, 大きさ37-42×11-12 μ m, 柄の上部では無色, 下部では黄褐色. 柄実質は偽アミロイド. クランプはすべての菌糸において見当たらない.

コメント

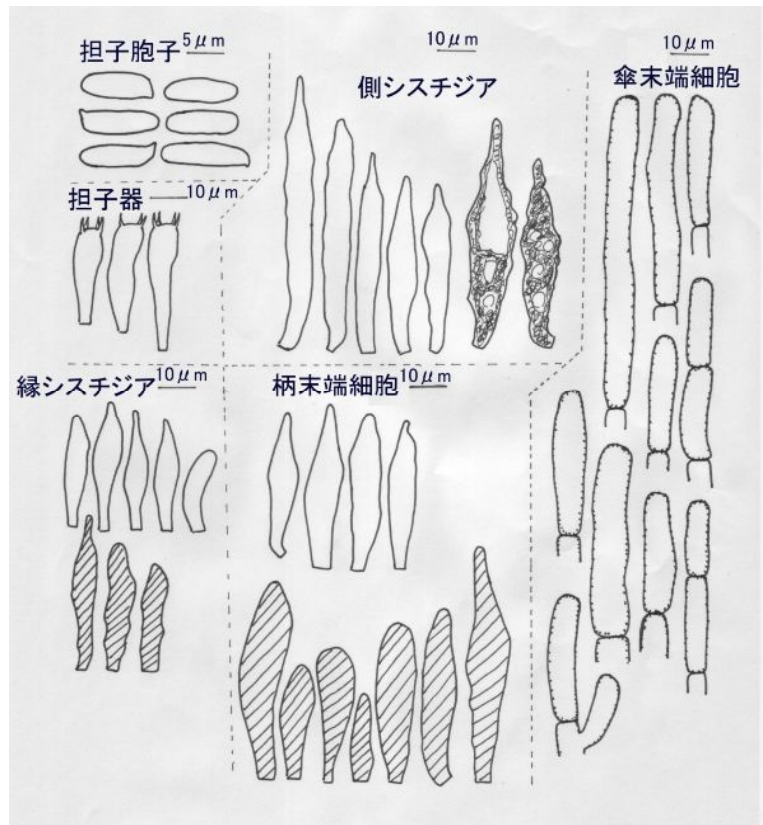
日本産ニガイグチ属の既知種の中でアシボソニガイグチに似ている種としてはコニガイグチ *Tylopilus rugulosoreticulatus* Hongo がある. コニガイグチはマツ科樹下に発生すること, 柄の上半部に網目があること, 胞子がより長径である点において異なる. 神戸ではまだコニガイグチは確認されていない.

参考文献

- 兵庫きのこ研究会編. 2007. 兵庫のキノコ p. 181. 神戸新聞総合出版センター
今関六也・本郷次雄編. 1989. 原色日本新菌類図鑑(Ⅱ)p. 34. 保育社.
Hongo, T. 1985. Jour. Jap. Bot. 60:372

コゲイロニガイグチ(幸徳仮称)

Tylopilus sp. (= *Tylopilus felleus* sense Aoki = *Tylopilus alutaceoumbrinus* sense Aoki)



採集日:2006年07月16日

採集場所:神戸市北区山田町再度公園

採集環境:アカマツ林樹下

肉眼的特徴

傘は径 3.0–6.0cm, 饅頭形から平らに開く;表面はビロード状, 粘性はなく, 焦茶色～チョコレート色, 触ると褐変する. 柄は 4–6×0.4–1.4cm, 上下同径か下部はやや太くなり, 中心性, 中実;表面は平滑でしばしば縦しわがあり, 傘と同色かやや淡く, ときに紫色を帯び, 頂部及び基部は白色, 触ると褐変する. 肉は厚さ 0.5–1.1cm, 傘・柄ともに白色, 切断するとゆつくりと淡褐色に変色し, 質はしまり, 異臭がし, 味はやや苦い. 管孔は直生または陥入状に上生し, 厚さ 4–5mm;孔口は 2 個/mm, ほぼ全縁;管孔・孔口ともに幼時白色のち成熟すると淡紅色, 触ると褐変し, 古くなると孔口は黄色を帯びてくる. 孢子紋は淡紅色.

顕微鏡的特徴

孢子は円柱形～長橢円形, 平滑, 大きさ 9.0–11.0×3.0–3.5 μm , Q 比 2.6–3.7. 担子器は棍棒形, 大きさ 26–35×7.0–7.5 μm . 縁シスチジアは棍棒形～狭紡錘形あるいは屈曲する円柱形, 群生し, 大きさ 23–42×5.0–7.0 μm , 無色～黄褐色. 側シスチジアは紡錘形～先端に向かって細まった円柱形, 大きさ 45–75×6.5–12.0 μm , 無色～黄褐色. 傘上表皮は毛状被で, 菌糸の太さ 5.5–7.5 μm , 菌糸の先端細胞は, その頂端が丸みを帯びた円柱形で, 菌糸には黄褐色の色素を凝着する. 傘の実質を構成する菌糸は錯綜し, 非アミロイド. 柄上表皮は平行菌糸被で, 末端細胞は立ち上がってシスチジア状となる;末端細胞は円柱形～狭紡錘形～棍棒形, 大きさ 25–63×5.0–10 μm , 柄の上部では無色のものが多いが下部では黄褐色のシスチジアが増える. クランプはすべての菌糸において見当たらない.

コメント

日本に産するニガイグチ属の既知種の中で柄に網目がない褐色系の種としては, フモトニガイグチ *Tylophilus alutaceoumbrinus* Hongo 及び クリイロニガイグチ *Tylophilus castanoides* Har. Takah. が知られている. フモトニガイグチ及びクリイロニガイグチはブナ科樹下に発生する点において本種とは異なる.

青木実氏の記載したニガイグチ(日本きのこ図版 No.173)=*Tylophilus felleus* sense Aoki 及びフモトニガイグチ(日本きのこ図版 No. 1466)=*Tylophilus alutaceoumbrinus* sense Aoki とは, 傘や柄の色, 顕微鏡的な特徴及び発生環境から本種と同一種と思われる. また, 孢子が長形なナガミノニガイグチ(日本きのこ図版 No. 1009)は本種の変異形ではないかと考えられる.

参考文献

Takahashi, H. 2002. Mycoscience 43(5):397–403.

池田良幸著・本郷次雄監修. 2005. 北陸のきのこ図鑑 No. 810,814. 橋本確文堂.

今関六也・本郷次雄編. 1989. 原色日本新菌類図鑑(Ⅱ) p. 34. 保育社.

Hongo, T. 1971. Mem. Shiga Univ. 21:62–68,

青木実. 2008. 日本きのこ図版 第5巻, 図版 No.1466.(名部みち代編). 日本きのこ同好会 2

青木実. 2008. 日本きのこ図版 第5巻, 図版 No.1009.(1978年復刻)(名部みち代編). 日本きのこ同好会 2

青木実. 2008. 日本きのこ図版 第5巻, 図版 No.173.(1967年復刻)(名部みち代編). 日本きのこ同好会 2